

平成 24 年 5 月 17 日(木)

第 19 回 BAMIS セミナー報告書

所属：人間総合科学研究科 水泳競技コーチング論研究室

氏名：酒井 紳

I. セミナー概要

開会に際し、高木英樹教授からセミナー参加者に Ross Sanders 教授の紹介と今セミナーの目的と意図の説明が行われた。Ross Sanders 教授はエジンバラ大学(英国)のスポーツサイエンス学科長を務めるとともに、学内において Center for Aquatics Research and Education(CARE)を拠点とし、水泳に関する様々な研究に従事されている。本セミナーでは「Biomechanical Research and Education in Aquatic Activity」の演題の下、CARE で行われている研究や、ロンドンオリンピックに向けた競泳の競技力向上プロジェクトの実情などの講義をしていただいた。



II. 開催概要

主催：文部科学省特別経費プロジェクト

「たくましい心を育むスポーツ科学イノベーション」

筑波大学大学院人間総合科学研究 体育科学専攻・コーチング学専攻・スポーツ

医学専攻 システム情報工学研究科 知能機能システム専攻

日時：平成 24 年 5 月 17 日（木） 17:00～18:30

場 所：筑波大学体芸棟 5C323

講 師：Dr. Ross Sanders (エジンバラ大学)

参加人数：30名



III. 講演概要

演題：Biomechanical Research and Education in Aquatic Activity

講義内容：

Ross Sanders 教授はエジンバラ大学の CARE で行われている研究やロンドンオリンピックに向けた競泳の競技力向上のプロジェクトについて講義を行った。講義の初めは競泳のスタートから水面に浮上して泳ぎだすまでを例に挙げ、水中における低抵抗の姿勢やドルフィンキックなどについての研究を紹介していただいた。後半には、泳動作中の左右の対称性について講義していただき、一般的に左右対称の動きをしていると考えられるバタフライや平泳ぎ泳では、競技力の高い選手であっても選手の利き腕や、左右の腕の筋出力の違いにより泳ぎの対称性が失われてしまうことなどについて映像などを利用し、わかりやすく説明していただいた。今夏にロンドンオリンピックが開催されることもあり、多くの教員や学生が海外の取り組みについて非常に興味深く傾聴していた。質疑応答では、今回の発表に関するだけでなく、水泳について様々な意見交換が活発に行われた。